

# 民進党に期待せず「国民は正確」

民進党ブームはさっぱり起きない。結党翌日(28日)の日経新聞は、世論調査で「民進党に期待する」の26%、「期待しない」が66%と報じた。普通、新党は「祝儀相場」でもっといい数字が出るものである。



民進党の「良識派」として評価の高い、長島昭久衆院議員「写真」が30日、感想を語った。

「国民はかなり正確に評価していると思う。看板だけ掛け替えただけだから。普通は中身も入れ替えて、かなり期待を集めることができる」岡田克也代表、枝野幸男幹事長は、新党でも残った。

「参院選挙単独なら、何とか野党協力でのけぞうだ。しかし、衆参ダブル選挙になったら、この支持率で自公政権をひっくり返すのは難しい。この場合、次の次の衆院選にかけるしかない。それまでに十分に立て直して勝負をする」長島氏は当選し、元防衛副大臣で、安全保障の専門家である。昨年の安保国会を、こう回顧した。

## 鈴木棟の風雲永田町

5345

「もっと、まともな議論をしたかった、と悔いが残る。国際情勢がこれだけ変化している。中国が台頭し、米国の力が相対的に落ち込んでいる。そのなかで、日本の立ち位置、日米同盟のあり方など、根本の議論をもっとやりたかった」なぜ、できなかったのか。「参考人の憲法学者が、与党推薦も含めて全員が『憲法違反だ』と言った。あそこから、連憲一本やりの議論になった。民主党らしい対案を出そうとしたが、無理だった。安倍晋三首相も悪い。「野党はただ反対だ。非現実的だ」どうすれば、よかったのか。

## 長島昭久「9月に執行部一新」

と、ことさらに対立構図をつくった。昔の自民党なら、野党第1党の民主党と話し合った。2003、04年、小泉純一郎内閣の有事法制で

出そうとしたが、無理だった。安倍晋三首相も悪い。「野党はただ反対だ。非現実的だ」

は、久間章生、山崎拓両氏らの自民党国防族が、民主党の意見を最大限に取り入れてまとめた。最後は横路孝弘氏までが賛成し、衆院の8割が賛成して成立した。野党5党は2月、「安保法廃止法案」を共同提出した。「本音では、不本意という議員が多いはず。『廃止』は民進党の中で20%ぐらい。反安保より、参院選の争点は『子育て』にすべきだ。若い人への社会保障は米国より低い」長島氏が結んだ。「9月30日の民進党代表選で執行部を一新し、未来に責任を持てるメンバーを中心に党を立て直したい」(政治評論家)